

様式1〔申し合わせ事項〕 【委員会、全協：共通様式】

令和6 年 10 月 10 日

総務建設常任委員会

委員長 南部 豊 様

東員町議会

山田由紀子

研 修 報 告 書

研修期間	令和6 年 10 月 10 日（木） ～ 月 日（ ）【 日間】
研修（視察）先	四日市市 危機管理統括部 危機管理課
目的（テーマ等）	四日市市災害時井戸登録要綱について
資料添付の有無	有 ・ 無

※ 研修概要、内容、所感などは、次ページに記入すること。

様式1〔申し合わせ事項〕：【委員会、全協：共通様式】

〔氏名：山田由紀子 〕

研修概要、内容、所感

四日市市 危機管理統括部 危機管理課

課長 後藤明彦 他職員数名対応

四日市市災害時井戸登録要綱について

東員町は、現在農業用を中心としての「井戸の使用」を把握していることから、「防災協力井戸」について着目し、予測不可能な災害の際の「災害協力井戸」が確保されれば、上下水道の被災状況によっては、発災後の生活の水不足解消につながるべとの検討を進める事となった。

行政側の公募等により、住民が申請を行い、行政が企画した看板を設置し、地域住民へ周知を進めるとしていた。行政機関を介するときは、申請である為この工程は外せないとしているが、はたしてこれで良いのか？と、感じている点ではあるが、管理を考えると仕方がないとも理解はする。日頃何事もなく過ごせている時に、「ちょっと畑に水が欲しい」「水を使っても良いか・・・」とのラフな状況や関係性があればよいと思われるが、理解を求めながら協力を頂くことであれば、行政機関としては、日頃の信頼関係や共生社会のレベル段階からも、ステップアップをした防災計画を提示していく必要があるのではないかと考える。

四日市は市役所の前、海岸線沿いにある小中学校を中心に、防災井戸を、設置を進めたとのことであった。20mほどの浅井戸で、工事費は1基が200万円と聞きとった。防災への認識を、行政側と市民が共に理解を深め高め合ってこそその事業であり、立地に特化した学ぶ点であるとも認識した。各地域の防災訓練の際には、防災協力井戸の確認を、「スタンプラリー」で、こども達も行っている。ただ、事業開始から10年間の歩みの中で、登録後の状況の把握については、これからとのことで、登録者市民に任せきりではなく、今後は、状況の確認や再点検が必要との反省も述べられていた。

東員町は、行政が行う多くの事業が混在する中で、当事者任せ中心で、事業や計画の結果も取れていないものや、風化してしまっている状況があり、これについては、行政側の業務点検管理も必要にはなっていく為、「防災協力井戸」が、東員町の防災計画の見直し後、本当に機能するのは、災害時ではある事から、日ごろからの「お互い様」の精神が損なわれないように注意深く対応すべき事業であることを、深く認識して検討を重ねていきたい。